

令和4年度第1回

平塚市文化財保護委員会 会議次第

日時：令和4年6月29日（水）

午前10時から

場所：平塚市美術館アトリエA室

あいさつ

1 報告事項

- (1) 令和3年度の文化財保護事業について（資料1）【公開】
- (2) 平塚市指定重要文化財の修理について（資料2・3）【公開】
- (3) 平塚市内文化財の調査について（資料4）【公開】

2 審議事項

令和4年度の文化財指定等について（資料5）【非公開】

3 その他【公開】

以上

公 開

平塚市文化財保護委員会 資料 1

令和 4 年度第 1 回文化財保護委員会

令和 4 (2 0 2 2) 年 6 月 2 9 日

I 文化財の保存と管理

1 文化財保護委員会

平塚市文化財保護条例(昭和32年10月2日条例第23号、昭和52年3月26日最終改正)にもとづき設置した市の附属機関で、委員会の委員は7人、学識経験者を市教育委員会が委嘱し、任期は2年間。

委員会は、文化財の保存及び活用に関し市教育委員会の諮問に答え、又は意見を具申し、このために必要な調査研究を行う。

氏名	専門分野	所属等
吉田英里子	美術史	多摩美術大学講師
近藤英夫	考古学	東海大学名誉教授
吉田鋼市	建築史	横浜国立大学名誉教授
小川直之	民俗学	國學院大學教授
薄井和男	彫刻史	元神奈川県立歴史博物館館長
鈴木建人	地域史	國學院大學大学院特別研究生
兼平賢治	近世史	東海大学准教授

文化財保護委員会の開催

○開催日 令和3年11月17日

- ・令和2年度・3年度の文化財保護事業について
- ・令和3年度の文化財指定等について

○開催日 令和4年3月28日(書面会議)

- ・令和3年度・4年度の文化財保護事業について
- ・令和4年度の文化財指定等について(諮問)

2 文化財の保存と管理

(1) 指定文化財

□ 文化財の指定

文化財保護委員会にて指定候補文化財の検討を行った。

□ 指定文化財の現状変更

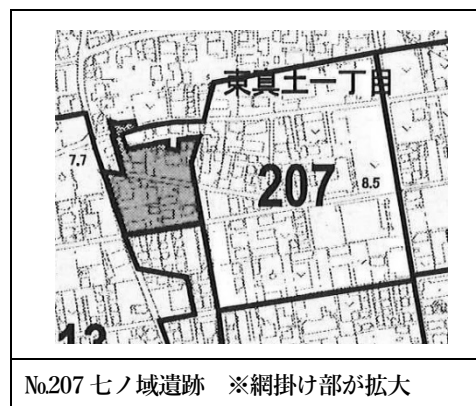
指定文化財の現状変更や所在地変更等について、申請・届出に基づき承認した。

区分	文化財種別	変更内容	文化財名	摘要
市指定	有形文化財(絵画)	現状変更	紙本版摺着色 十二天像のうち十一天	修理

(2) 埋蔵文化財包蔵地の把握・周知

神奈川県および平塚市の試掘確認調査等の結果、範囲等の変更を要する埋蔵文化財包蔵地について、神奈川県教育委員会に報告した。

包蔵地名	増補内容	日付	理由
七ノ域	範囲拡大	3.10.13	試掘確認調査（県・市）、立会調査（市）の結果による



(3) 文化財（指定・登録文化財）の管理（修理）

芳盛寺所蔵の市指定有形文化財（絵画、記号番号：平第 35 号）に経年劣化が見られたため、修理を行った。

修理対象：紙本版摺着色 十二天像のうち十一天

内容：表装の交換、収納用桐箱の作成

施行者：柘植表具店（平塚市公所）

(4) 旧横浜ゴム平塚製造所記念館の管理

日常的な維持管理は指定管理者が実施

(5) 説明板・案内板等の管理

市内の文化財について、由来や解説を記した説明板・案内板、位置を示した道標などを設置している。経年劣化に伴う盤面交換や、記載内容の更新、安全点検等を随時行った。

種別	名称	内容	備考
点検	市内各説明板・案内板	目視点検	
修繕	妙覺寺四脚門	盤面交換	劣化のため

(6) 演技指導者の派遣

人形浄瑠璃の演技指導のため、人形浄瑠璃指導員を委嘱し、前鳥座に派遣している。本年度は3回（5月30日、6月13日、11月14日）の演技指導を実施した。

(7) 防災訓練

文化財防火デー（第 68 回は令和 4 年 1 月 26 日）にあわせ、文化財を火災、震災その他の災害から守り、市民一般の文化財愛護に関する意識の高揚を図るため、防火査察と消防訓練を毎年実施している。

□ 防火査察

令和 4 年 1 月 24 日・26 日 妙楽寺ほか 18 か所

□ 消防訓練（平塚市消防本部主催）

真福寺にて令和 4 年 1 月 25 日に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症まん延のため、中止した。

(8) 文化財資料の管理

□ 文化財及び文化財資料の収蔵

市内の文化財及び関連資料について、関係機関から引き渡しを受け収蔵した。

調査名	資料種別		備考
道半地遺跡第 8 地点	出土遺物、調査図面、写真等調査資料一式	(有)吾妻考古学研究所	報告書刊行
寺尾遺跡第 5 地点	出土遺物、調査図面、写真等調査資料一式	(有)吾妻考古学研究所	報告書刊行
稲荷前 B 遺跡第 9 地点	出土遺物、調査図面、写真等調査資料一式	(有)吾妻考古学研究所	報告書刊行
寺尾遺跡第 4 地点	出土遺物、調査図面、写真等調査資料一式	武相文化財研究所	報告書刊行

□ 金属製品の保存処理委託

過去の発掘調査で出土した金属製品を、劣化・消滅から守り、良好な状態での保存を可能にするため、専門知識のある業者に委託した。令和 3 年度は六ノ域遺跡第 4 地点（昭和 60 年調査）から出土した金属製品のうち鉄鏃 1 点と刀子 4 点の計 5 点を保存処理委託した。

(9) 補助金等交付

□ 文化財の管理・保持者が当該文化財の保護・維持管理に必要とする費用について、市文化財保護条例および同施行規則並びに各補助要綱に基づき、以下の補助金を交付した。

補助金名	団体名	交付額	補助対象
指定文化財保存修理等補助金		—	
(なし)		—	
平塚市指定文化財保存管理奨励補助金（有形）		160,000	
	光明寺		聖観世音菩薩立像
	明王院		白衣観音菩薩坐像
	延命寺		地藏菩薩半跏像
	北金目神社		北金目神社本殿

平塚市指定文化財保存管理奨励補助金（無形）	240,000	
田村ばやし保存会		田村ばやし
前鳥神社祭事保存会		麦振舞・宮入神事等
前鳥神社囃子太鼓保存会		前鳥囃子と里神楽
平塚市文楽人形伝承団体補助金	200,000	
相模人形芝居前鳥座		文楽人形
湘南座		文楽人形
県立高浜高校文楽部		文楽人形
平塚市歴史再発見活動団体補助金	0	
（なし）		—

□ 平塚市以外の補助金・助成金等

神奈川県及び民間の補助・助成制度について適宜情報提供し、その活用を促した。

II 文化財の調査

1 埋蔵文化財の調査

(1) 埋蔵文化財包蔵地に対する照会など

周知の埋蔵文化財包蔵地またはその周辺において土木工事を計画する場合、事前に事業者とその取扱いについて協議し、事業者の依頼に基づき試掘確認調査を実施している。また、埋蔵文化財に影響を及ぼすことが避けられない場合、記録保存のための発掘調査を指導した。

埋蔵文化財事務処理件数				
事前相談書作成件数			607件	
開発事前協議回答数			87件	
土木工事等の発掘届出・通知数	法93条 (土木工事等のための発掘)	414件	発掘調査	7件
			工事立会	397件
			慎重工事	10件
			その他	0件
	法94条 (国の機関等が行う発掘)	14件	発掘調査	0件
			工事立会	14件
慎重工事			0件	
その他			0件	
発掘調査届出・報告数	法92条 (調査のための発掘)		7件	
	法99条 (地方公共団体による発掘)		4件	

(2) 開発などに伴う調査件数

開発などに伴う調査件数			
本発掘調査	11件	民間事業	9件
		公共事業(国・県)	1件
		公共事業(市)	1件
試掘・確認調査	97件	周知の包蔵地	78件
		周知外	19件

□ 文化財認定件数 17 件

発掘調査等により遺物を発見した場合には、文化財保護法第 100 条に基づき警察署に発見届を提出するとともに、県教育委員会宛て保管証を提出した。

埋蔵物の監査・文化財認定 ※令和 4 年 2 月 28 日時点		
本発掘調査	民間調査組織によるもの	4 件
	市教育委員会によるもの	4 件
試掘・確認調査 (工事立会を含む)	県教育委員会によるもの	－
	市教育委員会によるもの	9 件

(3) 民間調査組織による発掘調査に対する監理・指導

□ 民間調査組織の発掘調査に対する監理

「神奈川県内における開発事業等に伴う埋蔵文化財発掘調査の指導等に関する要綱」に基づき、市内において発掘調査を実施する民間発掘調査組織に対し、発掘調査・整理作業・報告書刊行の各段階で必要な指導・助言を行った。

民間調査組織による発掘調査に対する監理・指導				
遺跡名	調査組織	調査面積	調査期間・刊行日	内容
諏訪前 B 遺跡第 8 地点	(株) アーク・フィールドワークシステム	739.9 m ²	R3.5.17～R3.9.6	発掘調査監理
六ノ域遺跡第 20 地点	国際文化財 (株)	1,110 m ²	R3.6.21～R4.3.23	発掘調査監理
構之内遺跡第 7 地点	(株) 玉川文化財研究所	1919 m ²	R3.7.12～R4.1.31	発掘調査監理
田村館跡第 6 地点	(株) アーク・フィールドワークシステム	192.2 m ²	R3.11.15～R4.1.31	発掘調査監理
道半地遺跡第 9 地点	(有)吾妻考古学研究所	約 973 m ²	R3.12.20～R4.2.21	発掘調査監理
遺跡名	編集組織	刊行時期		内容
稲荷前 B 遺跡第 9 地点	(有)吾妻考古学研究所	2021.5 刊行		報告書刊行監理
東中原 G 遺跡第 5 地点	(株)アーク・フィールドワークシステム	2022 刊行予定		報告書刊行監理

(4) 調査概要 (発掘調査)

1	諏訪前 B 遺跡第 8 地点	出土遺物	土器、灰釉陶器、緑釉陶器、土製品、鉄製品、銅製品、石器、石製品、軽石、鉄滓 (整理箱 50 箱)
遺跡種別	集落跡		
所在地	平塚市四之宮二丁目		
調査期間	R3.5.17～R3.9.6		
調査組織	アーク・フィールドワークシステム		
調査面積	739.9 m ²		
調査原因	店舗建設	出土品等の保管	報告書刊行までアーク・フィールドワークシステムが保管
発見遺構	竪穴住居跡、竪穴状遺構、掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構、道路状遺構、埋納甕、不明遺構、小穴		
2	六ノ域遺跡第 20 地点		
遺跡種別	集落跡、官衙跡		
所在地	平塚市東真土二丁目		
調査期間	R3.6.21～R4.3.23		
調査組織	国際文化財研究所		

調査面積	1,110 m ²
調査原因	公民館建設
発見遺構	竪穴住居址、土坑、溝状遺構、井戸址など
出土遺物	土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、土製品、鉄製品、銅製品など
出土品等の保管	報告書刊行まで国際文化財研究所が保管

3	構之内遺跡第7地点
遺跡種別	遺物散布地
所在地	平塚市四之宮一丁目
調査期間	R3.7.12～R4.1.31
調査組織	(株)玉川文化財研究所
調査面積	1,919 m ²
調査原因	工場建設
発見遺構	溝状遺構、井戸址ほか
出土遺物	ガラス製品、金属製品、陶器、磁器、瓦、灰釉陶器、土器、獣骨 (整理箱 23箱)
出土品等の保管	報告書刊行まで玉川文化財研究所が保管

4	田村館跡第6地点
遺跡種別	城館跡
所在地	平塚市田村七丁目
調査期間	R3.11.15～R4.1.31
調査組織	アーク・フィールドワークシステム
調査面積	192.2 m ²
調査原因	集合住宅
発見遺構	溝状遺構、掘立柱建物址、土坑、小穴ほか
出土遺物	土器、土製品、陶器、磁器、石製品、木製品 (整理箱 3箱)
出土品等の保管	報告書刊行までアーク・フィールドワークシステムが保管

5	道半地遺跡第9地点
遺跡種別	集落跡
所在地	平塚市田村一丁目 5669 番 1 外 2 筆
調査期間	R3.12.20～R4.2.21
調査組織	(有)吾妻考古学研究所
調査面積	約 973 m ²

調査原因	店舗
発見遺構	竪穴住居址、溝状遺構、井戸址ほか
出土遺物	土器、陶磁器、鉄製品、木製品、馬歯骨 (整理箱 8箱)
出土品等の保管	報告書刊行まで吾妻考古学研究所が保管

6	真田宮ノ前遺跡第1地点
遺跡種別	遺物散布地
所在地	平塚市真田一丁目
調査期間	R3.5.10～5.31
調査組織	平塚市教育委員会
調査面積	22 m ²
調査原因	個人住宅(発掘調査)
発見遺構	竪穴住居址、溝状遺構、土坑、土坑墓、小穴〔弥生時代～中・近世〕
出土遺物	弥生土器 (整理箱 2箱)
出土品等の保管	平塚市教育委員会

7	大畑 A 遺跡第1地点
遺跡種別	遺物散布地
所在地	平塚市高根字大畑
調査期間	R3.6.16～7.7
調査組織	平塚市教育委員会
調査面積	18 m ²
調査原因	個人住宅(発掘調査)
発見遺構	竪穴住居址
出土遺物	弥生土器 (整理箱 5箱)
出土遺物の保管	平塚市教育委員会

8	大会原遺跡第8地点
遺跡種別	集落跡、遺物散布地
所在地	平塚市東真土二丁目
調査期間	R3.10.11～10.29
調査組織	平塚市教育委員会
調査面積	20 m ²
調査原因	個人住宅(発掘調査)
発見遺構	竪穴住居址、土坑、小穴
出土遺物	土師器、須恵器、鉄製品、土製品 (整理箱 3箱)
出土品等の保管	平塚市教育委員会

9	構之内遺跡第8地点
遺跡種別	遺物散布地
所在地	平塚市四之宮一丁目961番9
調査期間	R4.1.17～R4.1.26
調査組織	平塚市教育委員会
調査面積	18 m ²
調査原因	個人住宅（発掘調査）

発見遺構	竪穴住居址、掘立柱建物址、道路状遺構、土坑、小穴
出土遺物	土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品、銅製品（整理箱1箱）
出土品等の保管	平塚市教育委員会

(5) 埋蔵文化財試掘・確認調査一覧

No.	調査原因	調査期間	所在地	調査面積 (m ²)	遺跡名称	発見遺構	出土遺物
1	倉庫	R3.4.13	平塚市立野町	4.00	東十町原遺跡	なし	なし
2	個人住宅	R3.4.15	平塚市豊田平等寺字久根下	4.00	平等寺遺跡	なし	なし
3	集合住宅	R3.4.16	平塚市岡崎字宮東	10.00	岡崎城跡B	なし	なし
4	個人住宅	R3.4.20	平塚市高根字大畑	2.80	大畑A遺跡	住居跡1	弥生土器 (整理箱1箱)
5	建売住宅	R3.4.21 ～ R3.4.22	平塚市四之宮三丁目	14.40	坪ノ内遺跡	住居跡5 溝状遺構2 性格不明遺構1	土師器・須恵器 (整理箱1箱)
6	建売住宅	R3.4.20	平塚市中原三丁目	6.80	中原A遺跡隣接地	なし	なし
7	建売住宅	R3.4.27	平塚市田村一丁目	8.00	長者窪遺跡	溝状遺構2	なし
8	住宅	R3.5.7	平塚市御殿一丁目	4.00	御殿G遺跡	竪穴状遺構1	なし
9	倉庫	R3.5.11 ～ R3.5.12	平塚市大神字墨染	35.00	墨染遺跡	住居跡13 溝状遺構3 小穴3 性格不明遺構1	土器、須恵器、陶磁器 (整理箱1箱)
10	建売住宅	R3.5.13・27	平塚市田村一丁目	20.00	長者窪遺跡	溝状遺構1 小穴2	なし
11	建売住宅	R3.5.14	平塚市東中原一丁目	2.80	東中原B遺跡	なし	なし
12	個人住宅	R3.5.18	平塚市黒部丘	1.00	花水台遺跡	なし	なし
13	個人住宅	R3.5.18	平塚市豊田本郷字本ノ内	4.00	本宿B遺跡	住居跡1 小穴1	なし
14	個人住宅	R3.5.20	平塚市大島字一町地	4.00	一町地B遺跡	溝状遺構1	なし
15	集合住宅	R3.5.25	平塚市東真土二丁目	6.00	通り西遺跡隣接地	なし	なし
16	個人住宅	R3.5.28	平塚市西真土三丁目	4.00	十四ノ域遺跡	なし	なし
17	宅地造成	R3.6.1	平塚市片岡字稲荷山	30.00	片岡遺跡	なし	なし
18	宅地造成	R3.6.3	平塚市東真土二丁目	7.80	大会原遺跡	住居跡3	土師器・須恵器 (整理箱1箱)
19	障害者グループホーム	R3.6.7	平塚市岡崎字王御住	4.00	岡崎城跡A	なし	なし
20	その他の建物 (寄宿舍)	R3.6.8	平塚市中原三丁目	4.00	中原D遺跡隣接地、厚木道遺跡隣接地、山王脇遺跡隣接地	なし	なし

21	その他の建物 (寄宿舎)	R3.6.10	平塚市田村七丁目	4.00	田村館跡	なし	なし
22	建売住宅	R3.6.11	平塚市岡崎字山王久保	4.00	山王久保遺跡 岡崎城跡 B	なし	なし
23	店舗	R3.6.15	平塚市東真土一丁目	7.60	諏訪前 A 遺跡	溝 3 小穴 2	
24	個人住宅	R3.6.18	平塚市御殿二丁目	4.00	御殿 D 遺跡	なし	なし
25	集合住宅	R3.6.22	平塚市東真土二丁目	14.00	通り西遺跡隣 接地	住居跡 2 土坑 1 小穴 5	土師器・須 恵器 (整理 箱 1 箱)
26	建売住宅	R3.6.24	平塚市田村七丁目	14.00	田村館跡	掘立柱建物跡 1 土坑 1 溝状 遺構 1 小穴 1	なし
27	個人住宅	R3.6.25	平塚市大神字遠蔵	2.40	遠蔵遺跡	なし	なし
28	集合住宅	R3.7.6	平塚市田村七丁目	12.60	田村館跡	土坑 1 溝状遺 構 4	なし
29	集合住宅	R3.7.13	平塚市公所	6.00	谷戸遺跡隣接 地	なし	なし
30	集合住宅	R3.7.16	平塚市東真土三丁目	6.00	十五ノ城遺跡 隣接地	なし	なし
31	災害用トイ レ設置	R3.7.28	平塚市東中原一丁目	4.84	東中原 D 遺跡 隣接地	なし	なし
32	集合住宅	R3.7.29	平塚市四之宮六丁目	6.00	道半地遺跡隣 接地	溝 2	なし
33	個人住宅	R3.8.6	平塚市中里	4.00	御領宮遺跡隣 接地	なし	なし
34	個人住宅	R3.8.6	平塚市西八幡三丁目	3.60	坂戸 B 遺跡	住居跡 3 溝 1	なし
35	個人住宅	R3.8.17	平塚市西八幡三丁目	4.00	天神前遺跡	溝 2	なし
36	建売住宅	R3.8.24	平塚市平塚五丁目	2.80	御領宮遺跡隣 接地	なし	なし
37	宅地造成	R3.8.25	平塚市御殿三丁目	14.00	御殿 B 遺跡	小穴 3 溝 2	なし
38	建売住宅	R3.8.24	平塚市公所	4.00	谷戸遺跡	小穴 2	なし
39	個人住宅	R3.8.26	平塚市四之宮四丁目	6.00	四之宮神戸遺 跡	住居跡 2 小穴 2	土師器・須 恵器 (整理 箱 1 箱)
40	個人住宅	R3.8.27	平塚市中原三丁目	4.00	山王脇遺跡	なし	なし
41	宅地造成	R3.8.31	平塚市城所字矢羽根	6.00	城所城跡	なし	なし
42	個人住宅	R3.9.3	平塚市田村八丁目	4.00	田村天神前遺 跡	なし	なし
43	店舗	R3.9.7	平塚市田村一丁目	18.00	道半地遺跡	住居跡 1 掘立 柱建物跡 2 溝 状遺構 4 小穴 3	須恵器、灰 釉陶器 (整 理箱 1 箱)
44	個人住宅	R3.9.10	平塚市御殿三丁目	2.40	御殿 E 遺跡	住居跡 1、小 穴 1	なし
45	個人住宅	R3.9.10	平塚市公所	20.00	谷戸遺跡	小穴 1	土器 (整理 箱 1 箱)
46	個人住宅	R3.9.15	平塚市東中原一丁目	3.60	東中原 D 遺跡	なし	なし
47	宅地造成	R3.9.15	平塚市中里	6.40	中里 D 遺跡隣 接地	なし	なし
48	住宅兼事務 所	R3.9.16	平塚市中原二丁目	4.00	中原 G 遺跡	溝状遺構 1	なし
49	その他の建物 (研究所)	R3.9.17 R3.9.27	平塚市四之宮一丁目	31.00	構之内遺跡	住居跡 2 溝状 遺構 7 道状遺 構 1 土坑 2 性 格不明遺構 1	須恵器・土 師器 (整理 箱 1 箱)

50	宅地造成	R3.9.21	平塚市御殿三丁目	12.00	御殿 B 遺跡	溝状遺構 2 小 穴 1	土器、陶磁 器 (整理箱 1 箱)
51	個人住宅	R3.9.24	平塚市城所	3.20	城所城跡	なし	なし
52	個人住宅	R3.9.29	平塚市大島字南河内	4.00	大島南河内遺 跡	なし	なし
53	宅地造成	R3.10.6	平塚市豊田平等寺字恩 願橋	6.00	平等寺遺跡	なし	なし
54	個人住宅	R3.10.7	平塚市出縄字中谷戸	4.00	出縄砦跡	なし	なし
55	個人住宅	R3.10.8	平塚市岡崎字王御住	4.00	柳久保遺跡	なし	なし
56	その他の建物 (福祉施設)	R3.10.14	平塚市新町	5.20	新町西遺跡	溝状遺構 1	なし
57	個人住宅	R3.10.15	平塚市公所字平台	4.00	谷戸遺跡	なし	なし
58	建売住宅	R3.10.19	平塚市西真土三丁目	1.00	十四ノ域遺跡	なし	なし
59	建売住宅	R3.10.21	平塚市岡崎字御所ヶ谷	2.00	赤坂遺跡	なし	なし
60	宅地造成	R3.10.22	平塚市西真土一丁目	5.00	梶谷原 B 遺跡	溝状遺構 1	なし
61	その他の建物 (老人ホーム)	R3.10.26	平塚市御殿二丁目	12.00	御殿 E 遺跡隣 接地	なし	なし
62	集合住宅	R3.10.29	平塚市四之宮五丁目	6.00	通り西遺跡	なし	なし
63	建売住宅	R3.11.2	平塚市御殿三丁目	4.00	御殿 E 遺跡	なし	なし
64	個人住宅	R3.11.5	平塚市立野町	2.00	東十町原遺跡	なし	なし
65	個人住宅	R3.11.11	平塚市東八幡二丁目	4.00	粕谷道遺跡隣 接地	なし	なし
66	個人住宅	R3.11.12	平塚市四之宮三丁目	1.00	六ノ域遺跡	なし	なし
67	個人住宅	R3.11.12	平塚市西八幡二丁目	2.00	鮫川遺跡隣接 地	なし	なし
68	宅地造成	R3.11.16	平塚市中原三丁目	12.00	厚木道遺跡	なし	なし
69	宅地造成	R3.11.18	平塚市岡崎字山王久保	2.00	山王久保遺跡	なし	なし
70	宅地造成	R3.11.19	平塚市御殿二丁目	6.00	御殿 E 遺跡	なし	なし
71	宅地造成	R3.11.25	平塚市四之宮五丁目	8.00	通り西遺跡	なし	なし
72	個人住宅	R3.11.30	平塚市北金目三丁目	2.80	大久保遺跡	なし	なし
73	個人住宅	R3.12.3	平塚市御殿三丁目	8.00	御殿 C 遺跡	なし	なし
74	個人住宅	R3.12.7	平塚市北金目一丁目	4.00	北金目塚越遺 跡	なし	なし
75	個人住宅	R3.12.10	平塚市東真土四丁目	4.00	十ノ域遺跡	なし	なし
76	建売住宅	R3.12.14	平塚市西八幡四丁目	4.00	カマエ遺跡	なし	なし
77	個人住宅	R3.12.16	平塚市平塚五丁目	2.80	御領宮遺跡	なし	なし
78	宅地造成	R3.12.21	平塚市御殿二丁目	6.00	中原御殿跡	なし	なし
79	個人住宅	R3.12.24	平塚市諏訪町	3.20	諏訪町 B 遺跡 隣接地	ピット 2 土坑 1	なし
80	個人住宅	R4.1.6	平塚市御殿三丁目	4.00	御殿 C 遺跡	なし	なし
81	個人住宅	R4.1.7	平塚市下島字美里	6.00	美里遺跡	縦穴状遺構 1 溝状遺構 1 小 穴 1	なし
82	個人住宅	R4.1.13	平塚市岡崎字城山	4.00	岡崎城跡 A	なし	なし
83	宅地造成	R4.1.14	平塚市北金目三丁目	4.00	竹ノ内遺跡	なし	なし
84	建売住宅	R4.1.25	平塚市西八幡三丁目	4.00	天神前遺跡	なし	なし
85	集合住宅	R4.1.28	平塚市中原三丁目	2.00	山王脇遺跡	なし	なし
86	集合住宅	R4.2.1	平塚市浅間町	6.00	後谷遺跡隣接 地	なし	なし
87	個人住宅	R4.2.4	平塚市豊田小嶺字上ノ 台	4.00	上ノ台遺跡	なし	なし
88	個人住宅	R4.2.8	平塚市四之宮三丁目	4.00	高林寺遺跡	住居跡 2	土師器、須 恵器、灰釉

							陶器（整理箱1箱）
89	集合住宅	R4.2.14	平塚市御殿一丁目	3.60	御殿M遺跡隣接地	なし	なし
90	宅地造成	R4.2.15	平塚市四之宮五丁目	4.00	通り西遺跡	なし	なし
91	集合住宅	R4.2.22	平塚市東八幡二丁目	4.00	粕谷道遺跡	住居1 土坑1 溝1	なし
92	個人住宅	R4.3.3	平塚市東八幡四丁目	4.00	稻荷前A遺跡	なし	なし
93	個人住宅	R4.3.8	平塚市東八幡二丁目	4.00	粕谷道遺跡	なし	なし
94	個人住宅	R4.3.10	平塚市御殿一丁目	4.00	御殿K遺跡	なし	なし
95	宅地造成	R4.3.15	平塚市中原二丁目	8.00	中原G遺跡	なし	なし
96	住宅	R4.3.17	平塚市四之宮三丁目	4.00	坪ノ内遺跡	住居1	なし
97	工場	R4.3.18	平塚市四之宮一丁目	36.00	構之内遺跡	溝2、土坑1	なし

(6) 平塚市教育委員会による資料整理

平塚市試掘・確認調査報告書4 ー平成13年度ー

平塚市埋蔵文化財シリーズ54 山王B遺跡第7地点

(7) 調査報告書の刊行

【平塚市教育委員会発行】

平塚市試掘・確認調査報告書4 ー平成13年度ー

平塚市埋蔵文化財シリーズ52 梶谷原B・北金目塚越遺跡（平成5・17・21年度調査）

2 有形文化財の調査

(1) 正福寺

木造薬師如来立像の修復に係る調査

管 理 者：宗教法人妙楽寺

所 在 地：平塚市大島813番地

調査日時：令和4年3月25日（金）

調 査 者：薄井和男（文化財保護委員）

概 要

1月に実施した文化財の防火査察の際に、管理者である妙楽寺住職から木造薬師如来立像の経年劣化が著しいと相談を受けたため、今回の現地調査に至った。

調査の結果、部材の欠損や虫蝕が随所に見られ、出来るだけ早めの修復が望ましいとの結論に至り、後日欠損部材の探索や、詳細な修復方法を検討することとした。

III 文化財の普及と活用

1 文化財の普及

□ 湘南ひらつか七夕まつり郷土芸能披露

ひらつか七夕まつりにおいて友好都市（花巻市、高山市、伊豆市）の郷土芸能が披露されるのにあわせ、市内外からの来場者に広く本市の郷土芸能を紹介することを目的に、平塚市の郷土芸能を披露している。本年度は、湘南ひらつか七夕まつりが新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、郷土芸能披露も実施されなかった。

□ 文化財写生コンクール

身近に存在する古い建物や道具、遺跡からの出土品、地域のお祭りや蒸気機関車を題材とした市内の文化財を写生することで、地域の歴史を身近に感じ、文化財を将来にわたって末永く保存していく意識を醸成することを目的に実施している。本年は、下記のとおり例年とは異なる形で実施した。

募集期間 令和3年7月1日（木）～30日（金）

展示期間 令和3年8月20日（金）～31日（火）

会場 JR平塚駅みどりの窓口内

展示数 16作品

□ 第45回ひらつか民俗芸能まつり

平塚市内の各地区に古くから伝承されている伝統芸能を広く市民に紹介し、その理解と認識を深め、将来にわたりこれらの芸能を伝承していくことを目的として、民俗芸能まつりを開催した。

【人形浄瑠璃芝居の部】

神奈川県立高浜高校文楽部（三番叟）

湘南座（壺坂観音霊験記 沢市内の段）

相模人形芝居前鳥座（傾城阿波の鳴門 順礼歌の段）

【囃子太鼓の部】

片岡神社太鼓保存会（片岡祭り囃子）

前鳥神社囃子太鼓保存会

（屋台ばやしと里神楽 前鳥囃子）

開催日 令和3年11月28日（日）

会場 平塚市中央公民館大ホール

来場者 事前申し込み制(10/15～先着順250名)

□ 遺跡調査・研究発表会

平塚市内で行われた遺跡調査によって得られた調査・研究成果を広く市民に公開するとともに、文化財の活用及び愛護意識の普及を目的として発表会を実施している。令和3年度は令和元・2年度の調査成果を下記のとおり発表する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、入退場自由な会場における発表会形式での実施を中止し、発表要旨の作成と配布とした。

内容 令和元・2年度発掘調査成果

発行日 令和4年1月31日

□ 大学交流事業「考古学の世界」

考古学を通じ歴史や文化財への理解を深めることと、市民と東海大学・神奈川大学が交流することにより良好な街づくり・学園環境づくりに資することを目的に、大学交流事業を実施した。

内容 「考古学と月信仰」
講師 北條芳隆氏（東海大学文学部教授）
会場 旧横浜ゴム平塚製造所記念館
開催日 令和4年3月19日
参加者 13名

□ 八幡山の洋館「文化・歴史講座
国登録文化財である「旧横浜ゴム平塚製造所記念館」のPRと活用の一環として、同館を会場に講演会を開催した。

内容 「命のビザ 杉原千畝とその周辺」
講師 宮川重信氏
会場 旧横浜ゴム平塚製造所記念館
開催日 令和4年3月5日
参加者 15名

□ 第49回相模人形芝居大会
国または県指定重要無形民俗文化財に指定されている相模人形芝居の五座が一堂に会し、日頃の鍛錬の成果を披露することにより、郷土芸能の保存伝承と普及啓発を図るため、相模人形芝居大会を県内4市が持ち回りで開催している。本年は、下記のとおり実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施を中止した。

出演 前鳥座（平塚市）、下中座（小田原市）、林座・長谷座（厚木市）、足柄座（南足柄市）

□ 六ノ域遺跡第20地点現地見学会
新四之宮公民館建設に先立ち実施された六ノ域遺跡第20地点の発掘調査の成果公開を目的に一般向け現地見学会を開催した。また、隣接する大野小学校からの要望により全児童を対象に現地見学

会を実施した。

主催 一般：国際文化財株式会社（調査主体者）
大野小学校：社会教育課
場所 新四之宮公民館建設予定地（平塚市東真土二丁目1番50号地内）
開催日 令和4年2月26日（一般向け）
令和4年2月28日（大野小学校向け）
全参加者数 870名（事前視察を含む）

□ 体験学習

・勾玉づくり教室
開催日 令和3年7月26・27日（月・火）
会場 平塚市埋蔵文化財調査事務所
参加者 26日：9名 27日7名
（各日定員14名）
開催日 令和4年3月28・29日（月・火）
会場 平塚市埋蔵文化財調査事務所
参加者 28日：21名 29日：22名
（各日定員22名）

◎学校関連事業

・校外学習
相模歴史ウォーク（相模小学校6年生）
大神埋蔵文化財収蔵施設内展示の見学を例年実施している。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症への対策として、1グループの人数を減じて実施。

実施日 令和3年6月7日（月）
会場 大神埋蔵文化財収蔵施設
参加者 81名

2 文化財の活用

□ 展示

展示施設	資料名	備考
平塚市博物館	市内出土考古資料	常設展示、春期特別展（R4.3.19-5.8）貸出
地区公民館	地域出土考古資料	大原・神田・城島・土屋・旭南 各公民館
進和ルネッサンス	原口遺跡出土資料	常設展示
平塚市埋蔵文化財調査事務所	市内出土考古資料	

□ 貸出

指定文化財の貸出

申請者	利用目的・内容	指定文化財名	貸出期間
湘南座	公演の稽古	乙女文楽かしら（沢市・静）・衣装ほか	R3.6.28～R3.8.31
湘南座	公演の稽古	乙女文楽かしら（沢市・静）・衣装ほか	R3.9.1～R3.10.31
湘南座	公演の稽古	乙女文楽かしら（沢市・静）・衣装ほか	R3.11.1～R3.12.31
湘南座	公演の稽古	乙女文楽かしら（沢市・静）・衣装ほか	R4.1.1～R4.3.31

その他文化財の貸出

申請者	利用目的・内容	資料名	貸出期間
東京国立博物館	平成館考古展示室常設展示	林B遺跡出土緑釉陶器ほか3点	R3.4.1～R4.3.31
高麗博物館	交流の歴史紹介画像使用	山王 A 遺跡遺物出土状況写真	R2.5～
平塚市博物館	平塚市博物館YouTube動画掲載	宮ノ脇遺跡トレンチ写真	R3.7～
平塚市博物館	常設展示品変更	真田・北金目ほか市内出土考古資料	R3.6.8～R5.3.31
平塚市博物館	R3 年度博物館実習展示貸出	真田・北金目遺跡群出土の縄文土器・種子	R3.9.14～10.8
平塚市博物館	R3 年度春期特別展資料貸出	万田遺跡他市内出土資料	R4.3.4～5.20

IV 管理及び運営

1 施設管理・整備

□ 施設一覧

名 称	所在地	面 積	収蔵箱数	備考
埋蔵文化財調査事務所	寺田縄 43-1	573 m ²	—	
埋蔵文化財調査事務所城島分室	小鍋島 1247-1	433 m ²	3943 箱	
大神埋蔵文化財収蔵施設	大神 2885-3	1,176 m ²	6605 箱	
米善倉庫第 14 号倉庫	代官町 37-57	175 m ²	1157 箱	賃借

□ 12 条点検

建築基準法第 12 条第 4 項の規定により、大神埋蔵文化財収蔵施設の建築設備点検を行った。

令和 4 年 1 月 13 日実施

□ 修繕・工事等

- ・埋蔵文化財調査事務所城島分室の倉庫一部撤去

□ 除草・清掃

- ・埋蔵文化財調査事務所城島分室および大神埋蔵文化財収蔵施設の除草
- ・大神埋蔵文化財収蔵施設の樹木伐採

□ 旧横浜ゴム平塚製造所記念館シロアリ防除

- ・シロアリの被害を防除するため、建物外周および床下に防除薬剤を散布した。

令和 3 年 7 月 26 日施工

V 附編

市内の指定・登録文化財一覧

平塚市内の指定文化財一覧

令和4年3月31日現在

1. 国指定文化財 3件（彫刻1、建造物1、史跡1）

種別	名称	員数	指定年月日	所有者・保持団体
有形：彫刻	木造 不動明王立像	1 軀	昭 8. 1.23	(宗) 八剎神社
〃：建造物	光明寺本堂内厨子 (付) 前立聖観世音菩薩像	1 基	昭 45. 6.17	(宗) 光明寺
史跡	五領ヶ台貝塚	—	昭 47. 7.29	平塚市

2. 神奈川県指定文化財 8件（彫刻2、工芸品1、建造物2、有形民俗2、無形民俗1）

種別	名称	員数	指定年月日	所有者・保持団体
有形：彫刻	木造 大日如来坐像	1 軀	平 3. 2. 8	(宗) 高林寺
〃：〃	木造 金剛力士立像	2 軀	平 3. 2. 8	(宗) 光明寺
〃：工芸品	光明寺銅鐘	1 口	昭 33. 9.20	〃
〃：建造物	四脚門	1 棟	昭 48.12.21	(宗) 妙覚寺
〃：〃	光明寺観音堂（本堂）	1 棟	昭 54. 2.16	(宗) 光明寺
〃：民俗	正福寺の庚申塔	1 基	平 18. 2.14	(宗) 正福寺
〃：〃	長楽寺の庚申塔	1 基	平 18. 2.14	(宗) 長楽寺
無形：民俗	相模人形芝居前鳥座	—	昭 57. 2. 9	前鳥座

3. 平塚市指定文化財 46件（絵画15、彫刻12、建造物2、古文書2、古記録3、考古7、民俗1、工芸品1、無形民俗3）

種別	名称	員数	指定年月日	所有者・保持団体
有形：絵画	絹本着色 僧空海画像	1 幅	昭 33. 9. 9	(宗) 芳盛寺
〃：〃	風外慧薫墨画・墨蹟	16 幅	平 6. 1.20	平塚市博物館
〃：〃	大山寺縁起絵巻	2 巻	平 6. 1.20	〃
〃：〃	中原御宮記	1 巻	平 6. 1.20	〃
〃：〃	絹本着色 観世音菩薩三十三身曼荼羅	1 幅	平 9.10. 1	〃
〃：〃	絹本着色 法然上人像	1 幅	平 7.10.25	(宗) 善徳寺
〃：〃	絹本着色 観心十界曼荼羅図	1 幅	平 7.10.25	(宗) 長善寺
〃：〃	絹本着色 親鸞聖人像・浄土七高僧像・聖徳太子像・蓮如上人像	4 幅	平 7.10.25	(宗) 真福寺
〃：〃	紙本墨画淡彩 十六羅漢図	双幅	平 8.10. 1	(宗) 福田寺
〃：〃	紙本着色 十王図	双幅	平 8.10. 1	〃
〃：〃	紙本着色 涅槃図	1 幅	平 11.10. 1	(宗) 神田寺（旧観音寺）
〃：〃	紙本着色 十王図のうち五道輪王	1 幅	平 11.10. 1	〃
〃：〃	紙本版摺着色 十二天像のうち十一天	11 幅	平 15.10.22	(宗) 芳盛寺
〃：〃	紙本着色 如意輪観音像	1 幅	平 15.10.22	(宗) 長善寺
〃：〃	東川斎桂山筆 不動明王二童子像	1 幅	平 28.2.3	個人(平塚市博物館寄託)
〃：彫刻	木造 聖観世音菩薩立像	1 軀	昭 35. 3.31	(宗) 光明寺
〃：〃	木造 薬師如来立像	1 軀	昭 45. 6.13	(宗) 宝積院
〃：〃	木造 薬師如来立像	1 軀	平 4. 3. 5	(宗) 正福寺
〃：〃	木造 十二神将立像	12 軀	平 4. 3. 5	〃
〃：〃	木造 阿弥陀如来立像	1 軀	平 4. 3. 5	(宗) 善福寺
〃：〃	木造 地藏菩薩坐像	1 軀	平 4. 3. 5	(宗) 善徳寺
〃：〃	木造 薬師如来坐像	1 軀	平 4. 3. 5	(宗) 平等寺
〃：〃	木造 阿弥陀如来及び観音・勢至両菩薩立像	3 軀	平 4. 3. 5	(宗) 薬王寺
〃：〃	木造 地藏菩薩半跏像	1 軀	平 5. 3. 3	(宗) 延命寺
〃：〃	木造 観音三十三応現身立像	33 軀	平 12. 9.30	(宗) 光明寺
〃：〃	木造 白衣観音菩薩坐像（聖観音菩薩坐像）	1 軀	平 22.12.10	(宗) 明王院
〃：〃	木造 閻魔王坐像	1 軀	平 25. 2.20	(宗) 妙楽寺
〃：建造物	金目観音堂二（仁）王門	1 棟	昭 60.11.25	(宗) 光明寺

〃	〃	北金目神社本殿	1棟	平 6.10.20	(宗) 北金目神社
〃	古文書	光明寺古文書	2巻	昭 35. 3.31	(宗) 光明寺
〃	〃	清田家(尼屋)文書	6通	昭 37. 2. 8	個人(平塚市博物館寄託)
〃	古記録	光明寺縁起書	1巻	昭 35. 3.31	(宗) 光明寺
〃	〃	駒形神社棟札・勸化札	11枚	昭 35.10.30	(宗) 駒形神社
〃	〃	北条氏所領役帳	1冊	昭 61. 1.24	個人(平塚市博物館寄託)
〃	考古資料	「国厨」墨書土器他 稲荷前A遺跡 第1地点1号竪穴住居址出土資料 一括	—	平 16.10. 1	平塚市教育委員会
〃	考古資料	変形四獣鏡他 真土大塚山古墳出土資料 一括	—	平 22.2. 1	平塚市教育委員会
〃	考古資料	弥生土器 広口壺1点、長胴壺1点	2点	平 27.2.4	平塚市(土沢中学校所蔵)
〃	考古資料	弥生土器 壺6点、甕1点、小形筒形土器1点、小形鉢形土器1点	9点	平 27.2.4	東海大学
〃	考古資料	弥生土器 甕2点	2点	平 27.2.4	平塚市教育委員会
〃	考古資料	佐波理匙他 山王A遺跡第4地点1号掘立柱建物跡出土埋納資料	1括	平 28.2.3	平塚市教育委員会
〃	考古資料	把手付き片口鍋他真田・北金目遺跡群 18A区(大久保遺跡) 3号竪穴住居跡出土資料一括	1括	平 30.2.26	平塚市教育委員会
〃	民俗資料	乙女文楽首(56点)衣裳(167点)他一括	—	平 17.11.28	平塚市教育委員会
〃	工芸品	鉄舌長鏡	1点	平 26.1.30	平塚市(平塚市博物館所蔵)
無形	民俗	田村ばやし	—	昭 51.11.24	田村ばやし保存会
〃	〃	前鳥神社祭事	—	昭 54. 2.20	前鳥神社祭事保存会
〃	〃	前鳥囃子	—	昭 61. 1.24	前鳥神社囃子太鼓保存会

4. 国登録有形文化財 5件(建造物5)

種別	名称	員数	登録年月日	所有者・保持団体
建造物	旧横浜ゴム平塚製造所記念館	1棟	平 16. 7.23	平塚市
建造物	原家住宅主屋	1棟	平 31. 3.29	個人
建造物	原家住宅茶室	1棟	平 31. 3.29	個人
建造物	原家住宅土蔵	1棟	平 31. 3.29	個人
建造物	原家住宅旧長屋門	1棟	平 31. 3.29	個人
合計	62件			

公 開

平塚市文化財保護委員会 資料 2

令和 4 年度第 1 回文化財保護委員会

令和 4 (2 0 2 2) 年 6 月 2 9 日

芳盛寺 紙本版摺着色十二天像のうち十一天 修復について

所有者：宗教法人芳盛寺 代表役員 高橋 芳照

所在地：平塚市土屋3163番地

施工期間：令和3年12月20日から令和4年2月18日まで

修復の経緯

全体的に劣化が進み、特に絵部分の折れ目や破れが著しいため、管理者が表具店へ修復を依頼した。

修復方法

経年劣化している「紙本版摺着色十二天像のうち十一天」11 幅の修復のため、修復を依頼した表具店に移送し、補修を実施した。

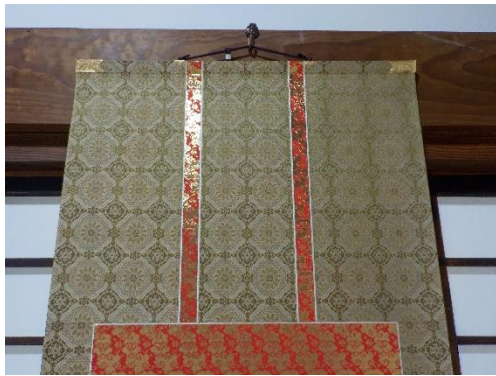
折れ目や破れを補修し、傷み防止のため桐箱太巻を新調した。



全体写真



絵部分拡大写真



表装(上部)



表装(下部)



桐箱

添付写真の絵及び表装部は、11幅のうち1幅(水天)のみを撮影。桐箱は地天。

指定文化財

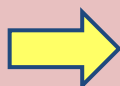
こんなときはご連絡ください



指定文化財の所有者や所在場所が変わったり、修理をしたりするときは、手続きが必要です。まずは、社会教育課までご連絡ください。

変更に関すること

- 相続や寄贈などにより、所有者が変わった。
- 引っ越しなどにより、所有者の住所が変わった。
- 博物館等への寄託、引っ越しに伴う移動などにより、指定文化財の所在場所が変わる。

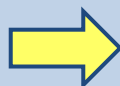


所有者に係る変更があった場合は、すみやかに教育委員会への届出が必要です。

指定文化財の現状を変更する場合は、**事前に**教育委員会への届出が必要です。

事件・事故に関すること

- 指定文化財が自然災害に遭って損傷した。
- 指定文化財が盗まれた。
- 指定書を紛失した。



指定文化財がき損や盗難等にあった場合は、すみやかに教育委員会へ届出が必要です。指定書を紛失してしまった場合は、再発行の申請をしてください。

修理に関すること

- 指定文化財を修理する。



指定文化財を修理する場合は、**事前に**教育委員会への届出が必要です。

修理によって文化財の価値を損なうおそれがあります。修理を行う際は、事前に（計画段階で）教育委員会と十分に相談の上で、一定の知識や技量を持った専門の修理技術者に任せるようにしましょう。

平塚市教育委員会 社会教育部 社会教育課 文化財保護担当
〒254-8686 平塚市浅間町9-1（本館7階702窓口）
電話 0463-35-8124（直通）
FAX 0463-34-5522（直通）
メール k-shakai@city.hiratsuka.kanagawa.jp

公開

平塚市文化財保護委員会 資料3

令和4年度第1回文化財保護委員会

令和4（2022）年6月29日

正福寺 木造薬師如来立像 修復について

管理 者: 宗教法人妙楽寺 代表役員 木村 企秀

所 在 地: 平塚市大島813番地

調査日時: 令和4年3月25日(金)、4月28日(木)

調 査 者: 薄井 和男氏(平塚市文化財保護委員)

現地調査の経緯

1月に実施した文化財の防火査察の際に、管理者である妙楽寺住職から木造薬師如来立像の経年劣化が著しいと相談を受ける。

修復を検討するならば、文化財保護委員の薄井先生による現地調査が好ましいと助言し、今回の現地調査に至った。3月に現状確認を行い、4月に具体的な修復箇所やその方法について調査を実施した。

概要（出典：『平塚の仏像』）

- ・像高97.4cm
- ・像(寄木造、彫眼、肉身部漆箔、着衣部黒塗)
- ・左手に薬壺
- ・両足、右手第1指、左手第1指及び第2指を欠失
- ・左袖前面部剥離(別に保管)

にくけいしゅ びやくごう あしほぞ
・肉髻珠、白毫、右手、足柄、台座等は後補

- ・螺髪は小粒で顔が丸い

現状

本躰

- ・像全体に彩色の浮き上がりや剥落などの損傷が激しい。特に面部、胸部などの肉身部に見られる後補の金箔や下地の損傷により像容が損なわれている。
- ・虫蝕孔も両手に加えて像全体の数か所に認められる。
- ・左袖材の一部分が脱落、欠損しているが、幸い部材が厨子内で発見される。
- ・頭部は螺髪の一部に後補とみられる不十分な補修が認められる。
- ・右手第一指先が欠失。左手第一、第二指が欠失している。
- ・両足が欠損しており、後補の足柄はあるものの台座への自立が極めて不安定な状態である。
- ・白毫、肉髻は後補の木造である。

台座

- ・表面の塗りは剥落し素地が露出している。
- ・隅足の一箇所が欠失している。



漆師如英立像

指定当時の写真(全体)



現在の写真(全体)



手



台座



台座裏



剥落部分(顔・胴体)

公開

平塚市文化財保護委員会 資料4

令和4年度第1回文化財保護委員会

令和4（2022）年6月29日

観音寺 木造聖観音菩薩立像 現地調査について

管 理 者:宗教法人神田寺 代表役員 大橋 啓人

所 在 地:平塚市大神2732番地

調査日時:令和4年6月13日(月) 午前10時00分から11時30分

調 査 者:薄井 和男氏(平塚市文化財保護委員)

現地調査の経緯

昭和 62 年度に平塚市仏教彫刻調査団(団長:三山進)が調査した当時は、「室町時代の作品にならった近世(江戸時代)の像」と判断していたが、その後の研究の進展により、江戸時代より古い時代の可能性も考えられるため、今回の現地調査に至った。

概要(出典:『平塚文化財調査報告書』第24集)

- ・像高:103.3cm、臂張:34.4cm、胸厚:17.5cm、台座高:8.7cm
- ・像(寄木造、彫眼、漆塗)
- ・両手が屈臂くつびしている
- ・右手は胸前で第1指と第2指とを捻じている
- ・左手は蓮花を持つ
- ・頭部は耳後で前後は矧ぎ、三道下で体部にさしこむ ・宝髻ほうけいは別材
- ・天衣、両足先などは別材 ・右足先、天衣垂下部は後補 ・宝冠は銅製

現状

- ・平成21年に大阪の仏師によって修復が行われ、特に虫に食われていた背中部分が修復されていた
- ・頭部含む全身が内剝うちぐりされている
- ・元来、箔が塗られていない仏像とみられる
- ・台座や脚部分は、ぐらつきがなく安定している
- ・脚から台座にかけて厨子内での湿気によるカビが多数発生していたため、ブラシ等で清掃した



全体写真



全体写真(横)



顔



頭部内割部分



足柄



台座

平塚市大神 観音寺 木造聖観音菩薩立像

2022・6・13 実査

木造聖観音菩薩立像

1 軀

〔法量〕

像高 103・7 髪際高 90・0 顎～頭頂 26・4 面長 12・1 面巾 10・4 耳張 12・2

面奥 14・2 臂張 12・2 裾張 28・8 胸厚 16・9 腹厚 18・3 足先開 18・0

台座巾 33・6 台座奥 31・3

〔形状〕

高髻を結び、天冠台をつける。頭髪は束ね目入り毛筋彫り（後頭部は刻まず）にし、一束が耳を渡る。白毫をあらわさず、耳朵は貫通しない。三道相をあらわす。天衣・条帛を懸ける。下半身に折返し付きの裙と腰布を着ける。両腕を屈臂して、左手に未敷蓮華を執り、右手は胸高で第1・2指を念ずる。膝をやや緩めて両足先を開いて、蓮華座の上に立つ。

〔構造〕

寄木造り。彫眼。古色塗り。

頭体幹部をとおして耳後方から体側裾を通る線で前後に矧ぎ、三道下で割首とする。宝髻別材。両腕を肩・肘・手首で矧ぐ。両足先に別材を矧ぐ。天衣は環状部・垂下部を別材でつくる。

天衣は後補とみられる。金銅製宝冠は新補。

〔概要〕

観音寺の本尊像。もと寄木神社の本地仏。

平成二十一年（2009）に解体修理が行われ、これにより、虫損の見られた本体部など補修のうえ、矧ぎ目の接着も正され、表面の仕上げが整えられて今の像容となった。修理の方法・出来などは、概略、文化財の価値を損なわない適正なものといえる。

本像の面部はやや平板ながら、しっかりとした頬の張りがあり、整った眉目、筋の通った鼻、締った口元など精彩がある。体部は量感があり、衣文表現は鎌倉地方で流行した宋風の大ぶりで変化に富んだ表現となっている。作風的には鎌倉後期のスマートな造形を引くものではなく、ややずんぐりとした体幹部や頭髪・耳の形など、南北朝・室町期に流行する院派仏師の系統に近いものとおもわれる。制作時期については、鎌倉地方の類似作例との比較をとおして14世紀末～15世紀前半頃と推定される。

本像が本地仏として造られた特徴として、造表面を漆箔などの本格仕上げとせず、木地に直に漆を塗り、唇に朱をさす程度の仕上げとしている点や、故意に鑿痕を整然と残して

いる点があげられようか。本地仏にまま見掛ける素朴な表現を狙ったものと推察される。
また、後頭部の毛筋彫りを故意に省略する点も、平安古像に倣ったものかとおもわれる。

(薄井和男)